令和5年度 奈良県立御所実業高等学校 学校評価総括表（年度末報告）

【高等学校用】

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	「ものづくりは人づくり・夢づくり」を基本テーマとし、「ものづくり」を通して喜びや達成感を味わい、総合的な人間力を土台にし、さまざまな分野で活躍できる社会人・職業人の育成
年度重点目標	1 学力の向上に向けて、授業の充実と主体的な学習習慣の育成を図る 2 規律ある生活習慣を育成する 3 健全な心身の発達に努め、勤労を尊重する精神を高揚する 4 地域との連携を図り、文化・防災の拠点となる学校を目指す

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 基礎的な学力が身についており、学習に対して前向きな生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校では「ものづくり」を通して、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味・関心に応じた科目選択ができるカリキュラムを編成します。 2 「資格取得」を目標に、生徒一人一人の学習意欲を喚起し、個に応じた指導により、わかる授業を展開します。 3 実習を通して、職業人として必要な知識や技能を身につけるとともに、人間力を養い、生きる力を育成します。 4 課題研究により、自ら課題を発見し解決する能力と創造力を養い、プレゼンテーション力を育成します。 5 ルールを守ることで規範意識を構築し、社会人としての資質を習得する態度を養います。 6 部活動、特別活動、自主活動を推進し、健やかな心身と人間力を育みます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 ものづくりを通して得た知識や技能、コミュニケーション力を実社会で活用することができる。 2 他者と協力し、協調性をもって物事に取り組む姿勢が身についている。 3 ものづくりに対し、創造力が豊かで、積極的に貢献し学び続けようとする態度ができている。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	望ましい運動習慣の確立	体育の授業以外での運動を習慣づける。	1日20分以上週4日行う割合50%以上。	・1学期に球技大会が悪天候のため中止。2学期に4年ぶりに3学年全体で開催した体育大会では、参加生徒が非常に意欲的に取り組んでいた。一方で、欠席生徒が目立ったクラスがあった。 ・生徒対象の【健康・食育についてのアンケート】「学校の体育以外での運動時間」で、「毎日30分以上運動する」33.5%（昨年28%）、「4~6日運動する」11.1%（昨年11.7%）、「1~3日運動する」16.7%（18.3%）、「月に1~2日程度」9.2%（昨年13.3%）、「特に何もしない」29.5%（昨年28.6%）。同アンケートで運動が好きと回答している生徒が79%いるが、運動が習慣となっているとはいえない。	B	B	・延期等を含めた悪天候を考慮したうえでの体育関連行事の計画。 ・体育科を中心とした教科横断的な取組により、体育関連行事の不参加生徒減少に取り組む。
	望ましい食習慣の確立	食育教育を通して朝食摂取率を上げる。	毎日の朝食摂取率65%以上。	・2学期未実施の生徒対象の【健康・食育についてのアンケート】「朝食を食べていますか」の「毎日食べる」57.3%（昨年54.6%）、「4~5日食べる」13.2%（昨年12.3%）、「2~3日食べる」12%（昨年8.7%）、「ほとんど食べない」17.5%（24.3%）と、昨年度よりは改善がみられた。なお、「毎日食べない理由は何ですか」の「食べない理由」では49.3%が時間がない、30%が食欲がないであった。	B	B	・朝食摂取が実習における集中力=安全につながることから教科横断的に取り組む。また、三者懇談等で保護者にも協力をお願いするとともに、生徒対象の「食育講演会」を計画する。 ・【健康・食育についてのアンケート】で睡眠時間が6時間未満と回答している生徒が約44%、携帯電話やスマートフォンを1日3時間以上利用していると回答した生徒が約69%ということから、就寝時間が遅く、朝食の時間を確保することができない生徒が多いと考えられることから、基本的生活習慣についての見直しが必要である。
	望ましい読書習慣の確立	朝読などを通して読書習慣を促す。	週に30分以上読書を行う割合25%以上。図書室の年間入室者数2,000人以上、年間貸出冊数350冊以上。	・図書室入室者数は開館日数164日で1205人（1月29日現在、昨年度1,328人）。貸出冊数117冊（昨年249冊）。 昨年度と比較し入室者数・貸出冊数ともに大幅に減少しているが、下校時に電車の待ち時間のため、図書室で読書をする生徒は増加している。 ・生徒自らが進路を考えるうえで参考になる新着図書は12冊。 ・各学期に「朝の読書」を実施するとともに、「図書室便り」を作成し、読書の楽しさや大切さについて発信しているが【生徒アンケート】では、「週に30分以上、本や雑誌を読む」が33.1%、「携帯電話やスマートフォンの1日の使用時間」が3時間以上が42.3%、ほとんど手放せないが26.3%であり、書籍離れがすすんでいる。	C	C	・各学期に1回実施される「朝の読書」の実施回数増加等を含め、より読書を身近なものにする取組を推進するとともに、引き続き「図書室便り」により読書の楽しさや大切さについて発信する。 ・現在、図書委員が中心となって取り組んでいる「POP」や「図書室便り」等への参加を全校生徒対象に拡げる。 ・生徒にとって身近な著名人の書籍や進路を考える参考になるような書籍を充実させる。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	基礎学力の定着	わかりやすい授業を展開する。	授業アンケートにおける生徒の授業における満足度85%以上。	・【授業評価アンケート】における肯定的回答は「生徒の授業への興味・関心」77.5%（昨年度76.8%）、「教員の授業の進め方」79.9%（昨年度78.3%）、「授業における板書・説明・指示等」79.7%（昨年度78.4%）。実習の肯定的回答は「生徒の授業への興味・関心」83.4%（昨年度81.6%）、「教員の授業の進め方」84.9%（昨年度81.4%）、「授業における板書・説明・指示等」84.6%（昨年度82.4%）。 昨年度よりすべての項目で肯定的回答が多くなっており、教員が授業改善に取り組んだ成果であると考えられる。しかしながら、目標値である85%に届いていない。 ・【生徒アンケート】の「どの授業も落ち着いて受けられる雰囲気がある」の肯定的回答78.5%、「分かりにくい内容を質問したり、個人指導を受けたりすることができる」の肯定的回答72.8%。 ・【生徒アンケート】「教科の学習に対して積極的に取り組んでいるか」では、肯定的回答が78%。	B	B	・実習と比較して他の授業の肯定的回答が少ないことから、個々の生徒の学習状況を的確に把握することで、「個別最適化した学び」を実現するための授業方法を確立する。また、生徒の積極的参加を促すような授業展開と工夫をとともに、教科を越えて教員同士が授業参観などを行い、生徒が主体的に取り組む授業方法を研究する。
	オンライン教育の推進	ICTを活用した教育を充実させる。	授業のためのICT活用能力を高める教員研修　年間2回以上。	・3学期に新校務支援システムスクールエンジンの教員の研修会を実施。 ・コロナ渦でのハイフレックス授業や電子黒板活用に対する研修により、教員がそれなりのスキルを身に付けており、現在は個々の教員が必要に応じて研修会等に参加している状況である。 ・生徒の授業時のPC準備について、PCの充電切れや忘れたなど学年やクラスによってかなりの差があり、PCを活用した授業に積極的に参加できない生徒がいる。	B	B	・個々の教員の力量に適した研究・研修を推奨する。 ・教員間で個々が持っているスキルを共有できるような校内体制を確立する。
	資格検定対策講座への参加の推進	資格検定対策講座の充実を図る。	資格検定合格率60%以上。	・資格検定の合格率は51.1%。（昨年48.8%）。 ・今年度、各科の資格検定では、環境緑地科で5検定、機械工学科で3検定、都市工学科で1検定、薬品科学科で6検定、電気工学科で2検定、工業科全体を対象として7検定を実施。 ・【生徒アンケート】「資格・検定取得に関する適切な指導が行われている」の肯定的回答90.0%、【保護者アンケート】「各種の資格が取得できるように積極的に取組んでいる」の肯定的回答72.9%（昨年95.1%）から、資格検定取得についての学校の取組については、概ね理解を得られていると考えられる。	B	B	・授業における資格検定取得に向けての取組に加え、放課後や長期休業を活用して資格検定取得に特化した対策講座をより充実させる。
		勤務時間を意識した業務の効率化を実現するとともに、ワークライフバランスを推進する。	長期休業中の定時退校実施及び超過勤務時間減少。	・長期休業中に定時退校を推進したが、全ての教職員が勤務時間内に業務を終了することは難しかった。 ・超過勤務時については、教職員が計画的に業務に取り組んでいることから減少し、昨年度のような突出した超過勤務の教職員はいない。 ・部活動に関わる教員の勤務時間管理が今後の課題である。 ・超過勤務は減少したが、ワークライフバランスの実現には至っていないと思われる。 ・フレックス制や勤務日の割り振りの積極的活用を呼びかけている。	B	B	・教職員の計画的な業務遂行と業務分担の推進。 ・部活動の週1日以上の休養日の設定。 ・年次有給休暇や特別休暇の取得やフレックス制及び勤務日の割り振り等の積極的活用を推進することで、ワークライフバランスを充実させる。
	学校における働き方改革の推進		教職員のストレスチェックにおける【総合健康リスク】県平均値以上。	・今年度の【総合健康リスク】の数値は97（昨年105）と全国平均を下回り昨年より低ストレスであった。毎日の退校時間の徹底及びそのための計画的な業務遂行を意識するよう呼びかけている。	B	C	・業務量の平準化を意識し、個々の適性等を考慮した校務分掌等の編成に加え、教職員相互の支援体制を充実させ、教職員が余裕を持って業務遂行できる環境づくりをすすめる。
3. 働く意欲と働くカをはぐくむ	インターンシップの充実	インターンシップ参加人数の向上を目指す。	インターンシップ参加率50%以上。	・進路指導部が実施するインターンシップに24名、機械工学科が実施する企業実習に43名の合計67名が参加し参加率は39.1%（昨年度32%）であった。	B	B	・進路指導部が中心となって、教科横断的にインターンシップの意義を生徒に積極的に発信し、生徒が早くから自己分析及び職種理解に努められるような環境づくりをする。 ・生徒が意欲的に取り組むように職場体験と各学科等が実施している企業実習をより充実させる。 ・インターンシップの充実を学校全体で実現するため、教員対象のインターンシップ研修を開催する。
	産業界との連携の推進	企業との連携事業件数を増やす。	協力企業との連携事業件数15件以上。	・今年度の連携事業件数は、機械工学科4件、都市工学科3件、電気工学科5件、環境緑地科3件、進路指導1件の計16件（昨年16件）で、協力企業は27企業。	A	A	・関係機関や企業等との連携を一層密にするとともに、生徒のニーズに応えることで、「生徒の学ぶ機会」をより充実させる。 ・専門高校ならではの「社会に開かれた教育課程」の編成を図り、地域の発展を担う人材を育成する。
	キャリア教育の推進	キャリアパスポートを活用したキャリアプランニング能力向上HRを展開する。	キャリアパスポート等を活用したキャリアプランニング能力向上HRの各学年の年間HR時数15時間以上。 進路や将来について考える生徒アンケートで肯定的回答80%以上。	・年間計画1年16回、2年18回、3年18回のHRのうち、1年8回、2年10回、3年16回実施。 ・【生徒アンケート】の「進路に関する指導や情報提供が十分に行われている」の肯定的回答89.1%、「進路実現や自己実現に向けての努力をしている」の肯定的回答81.4%、【保護者アンケート】「生徒一人一人を大切にした進路指導を行っている」で肯定的回答90.6%（昨年93.6%）、「子どもの適性や進路目標にふさわしいカリキュラムが構成されている」の肯定的回答90.0%（昨年93.6%）。 ・生徒・保護者アンケートの結果から進路に関する学校の取組については、概ね理解を得られていると考えられる。	A	B	・キャリアパスポートを活用した個人面談を実施し、教員が生徒個々のこれまでの歩みを深く理解することで効果的なサポートに繋げる。 ・進路実現に向けての面接準備や自己PR文の作成などに積極的に活用していく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	コミュニティ・スクールを充実させる。	学校運営協議会を年間2回以上開催。委員と学校の現状と課題を共有し、連携した教育活動を実践。	1学期に第1回学校運営協議会開催し、各委員に学校の現状を報告すると共に、学校の教育活動への参画や連携について意見を募った。3学期の第2回学校運営協議会では、各委員から提案いただいた案件について審議し、実現性の高いものから実施計画を策定。学校評価総括表を用いて今年度の学校運営について説明し、評価いただくとともにご意見をいただいた。	B	A	・学校運営協議会の定期的な開催と活発な意見交換を推進するとともに、学校運営協議会委員の提言をもとにした取組の実現を図る。
	地域の活性化	地元伝統行事への参加。	生徒会活動等を中心とした地域の伝統行事への参加回数、年間5回以上。 ボランティア活動に関わる生徒アンケートで肯定的回答70%以上。	・地域の伝統行事や地域活動に生徒会役員、家庭クラブ員やクラブ員らが中心となって8回の活動に90名が参加。 ・地域の行事等については、コロナ渦で取りやめていた行事が復活しつつあり、地域貢献や生徒の自己有用感の育成を図るために積極的に取り組んでいる。 ・【生徒アンケート】「生徒会活動や部活動が活発に行われている」の肯定的回答87.7%であるが、「学校はボランティア活動に熱心に取り組んでいる」の肯定的回答が64.4%、自分自身が「ボランティア活動に積極的に参加している」の肯定的回答が53.1%であり、生徒個々が積極的に取り組んでいるとはいえない。	B	B	・地域における学校の役割を生徒と共有するとともに、生徒会等を中心にした地域活動に積極的に参加することで、地域貢献の気持ちを醸成し、生徒の自己有用感の育成に取り組む。 ・ボランティア活動の場を提供することで、生徒自らが住む地域における貢献活動に積極的に取り組むきっかけとする。
	地域の美化	HRや通学路清掃を通して地域の美化に貢献する態度を養う。	美化委員会活動等を中心とした清掃活動の実施、年間3回以上。 清掃活動や環境美化に関わる生徒アンケートで肯定的回答70%以上。	・美化委員会を中心とした清掃活動を3回実施し、美化委員やクラブ員を中心に計135名の生徒が参加。 ・部活動加入率が4月の時点で約49%と低いなど、放課後に学校で活動する生徒が少ないため積極的な参加が望めない。 ・【生徒アンケート】の「校内の環境が美しく整備されている」の肯定的回答76.1%、「清掃活動や落ちているゴミを拾うなど校内を美しく保つことを意識している」の肯定的回答79.1%。	B	B	・部活動加入率が4月の時点で約49%と低いなど、部活動等を通して学校への所属意識を高めることで、清掃活動等のボランティア活動への積極的参加を促していく。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の充実	HRや講演会、フィールドワークにおける人権教育を充実させる。	人権教育HR・講演会の各学年における実施回数　年間5回以上。 人権や命の大切さに関わる生徒アンケートで肯定的回答90%以上。	・人権教育HRは、年間で第1学年4回、第2学年5回、第3学年で5回実施。 ・2年生でクラスごとに水平社博物館を中心とした部落問題についてのフィールドワークを10月31日~11月28日に実施。 ・10月13日に全校生徒を対象に「LGBTQ」についての人権教育講演会を実施。 ・【生徒アンケート】の「人権や命の大切さについて適切な指導が行われている」の肯定的回答90.2%、「いじめや暴力、暴言などへの指導が適切に行われている」の肯定的回答84.9%。	B	B	・教職員に自発的研修を促すとともに、組織的・継続的研修を推進する。 ・入学後早期に「自己実現の視点・共生の視点・人間関係づくりの視点」をもとにした人権教育HRを展開する。 ・HR実施前の教員による学年研修を充実させ、より実効性のあるものにしていく。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止。	いじめアンケートの年間2回以上の実施。 人間関係や教室環境に関わる生徒アンケートで肯定的回答90%以上。	・いじめアンケートを年2回実施したが、重大事案と思われる事象はなかった。 ・【生徒アンケート】の「クラスがよくまとまっている」の肯定的回答78.1%、「充実した学校生活を送っている」の肯定的回答87.9%、「悩みを相談できる友人がいる」の肯定的回答88.4%と、目標値には届いていない。	B	B	・あらゆる機会を通じて生徒情報を共有し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に取り組む。
	特別支援教育の推進	SCを有効活用し、悩み解消に努める。	SCの継続的・効果的カウンセリングを実施するとともに、SCと連携し生徒理解に努める。 教員の生徒理解に関する生徒アンケートで肯定的回答90%以上。	・今年度のSCへの相談人数は13名、相談件数はのべ24件でSCと連携して生徒理解に努めている。 ・保健室に来室した生徒をSCに繋げるケースがあったが、実際には、もっとSCに繋げる必要がある生徒がいると考えられる。 ・【保護者アンケート】「子どものことについて適切に相談に応じている」の肯定的回答89.0%（昨年92.9%）、 ・【生徒アンケート】「先生は生徒理解につとめている」の肯定的回答85.3%。	B	B	・保健室の養護教諭からの生徒情報を全教職員が共有する研修の実施。 ・SCの役割、業務等を全教職員が共有するため、SCが講師となった校内研修の実施。
		個別の教育支援計画の実効性ある活用。	生徒情報を共有するために、支援教育推進委員会を月1回以上開催し、個別の教育支援計画や指導計画を実効性のあるものにする。	・支援教育推進委員会を毎月1回以上開催することはできなかったが、会議等を通じて、支援等を要する生徒情報を教職員が共有した結果、適切な対応をすることができた。	B	B	・中学校からの情報をもとにした生徒への支援にとどまらず、一人一人の特性に応じた支援を行うことで対象生徒の困り感を軽減するとともに、将来につながるスキルを身に付けることで進路実現につなげる。

※評価は3段階で実施 A=達成　B=概ね達成　C=未達成 で評価
※【生徒アンケート】は今年度から実施したため経年比較は来年度から実施。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

・【保護者アンケート】の「本校に子どもが入学して良かったと思う」の肯定的回答92.7%（昨年度94.9%）。
・【生徒アンケート】の「御所実業高校に入学してよかったと思う」の肯定的回答87.7%。
『「安良の学び」を推進するためには』を視点として作成した中期計画に基づき、本校の教育活動をまとめ、その達成度について評価した。
従来からの保護者対象の「学校生活に関するアンケート」、生徒対象の「授業評価アンケート」、「健康・食生活についてのアンケート」を評価の指標とするとともに、今年度、新たに生徒対象の「学校生活に関するアンケート」を実施した。基本となる教育活動では、肯定的回答が多数を占めているが、今後は、現状の課題に対応するため否定的回答について着目していくことが、より重要ではあると考えている。
すべてのアンケートをFormsにより実施したが、課題として、保護者アンケートの回答率が約5割であることと、各質問項目で、昨年度より評価が僅かではあるが低くなっていることが懸念される。今後は、回答率を高める方策を考えるとともに、否定的回答からも多くの提言を引き出し、学校運営に生かしていきたいと考えている。